

七友会 だより



岩手山と高松の池

INDEX

長澤会長ご挨拶・遠藤会長ご退任のご挨拶……………	2
丸山学部長ご挨拶・横山学部長ご退任のご挨拶…	3
ご退任の先生ご挨拶……………	4
2023年度評議員会での事業報告……………	5
2023年度会計決算報告および会計監査報告……………	6
2024年度事業計画・2024年度会計予算・ 役員改選について……………	7
2024年度岩手大学人文社会科学部同窓会会計予算…	8
近況報告……………	9
八戸支部の発足について・お知らせ……………	10

これからの予定

令和7年6月14日(土) 午後2時 2025年度評議員会
エスポワールいわて
※参加方法等についてはホームページでお知らせします。

岩手大学人文社会科学部同窓会 <七友会>

(連絡先) 020-8550 盛岡市上田3-18-34
岩手大学 人文社会科学部内「七友会」宛
電話:019-621-6701 FAX:019-621-6715
Eメール: shichiyu@iwate-u.ac.jp

ホームページ

<https://jinsha.iwate-u.ac.jp/shichiyu/>

岩大 七友会

検索

長澤会長ご挨拶

A T Mな組織を目指して



岩手大学人文社会科学部同窓会七友会
会長 長澤 秀則

このたび1期生の遠藤隆会長からバトンを受け、会長となりました3期生の長澤秀則と申します。在学中は「行動科学専攻コース」に在籍しており、年4回の心理学や社会学の研究発表に悪戦苦闘したり、囲碁部では仲間と切磋琢磨し東北大会に参加していました。PTA役員は11年ほど経験がありますが、同窓会役員のキャリアは少なく暗中模索の状態です。前会長が取り組み、実績を挙げた「財政健全化」や「次世代の体制づくり」をベースに、持続可能な七友会のあり方を皆様と考えていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

さて、最近のうれしいニュースを1つ。当学部の麻田雅文准教授の著作『日ソ戦争 帝国日本最後の戦い』（中公新書、2024年）が、第28回司馬遼太郎賞を受賞したことです。この賞は、創造性にあふれ、更なる活躍を予感させる作品が選ばれるということです。「日ソ戦争」は、第2次世界大戦の末期、1945年8月8日から始まり、終戦後の9月上旬まで繰り広げられた戦争。ソ連が中立条約を破棄したことなどが断片的に知られていましたが、麻田先生は、ロシア公文書館などから新史料を発掘し、米国がソ連に参戦を強く要請してきたことなど、この戦争の全貌を解き明かしたのです。文中には次のくだりがあります。「残

念ながら戦争という愚行は人類の不治の病である。今世紀も例外ではない。（中略）いまのところ日本が戦った最後の戦争である日ソ戦争から、未来への知恵を得ようとする試みである。」今、世界情勢が不安定で、力による現状変更の動きが見られ各地で戦争が絶えない。悲惨な歴史を伝え、風化させてはなりません。ぜひ会員の皆様にもお読みいただきたいと思っております。

令和6年6月の七友会評議員会においては、評議員会と理事会のあり方、役員若返り、支部組織づくり、事務局体制のあり方など、様々な提言があり、宿題となりました。現在、人社の学生の女性と男性の割合は、「7：3」に近いとこのことで、女性の役員や参加者をもっと増やすべきだという意見もありました。

一般的に同窓会は「堅苦しそう」「関わると面倒なことになりそう」等のイメージを持たれることが多く、運営が難しい時代を迎えています。七友会会則には「会員相互の親睦と母校の隆盛を図り、社会の発展に寄与することを目的とする。」とあります。今回役員に初めて10期生以上の若い(?)世代が入り、ちょっぴりフレッシュな体制となりました。明るく、楽しく、前向きに、「A T M」が私のモットーです。懐かしの友人と再会したり、新たな出会いや交流が生まれ、母校や社会のためになる面白いことを考えたり…。多様な世代や職業人が参加したくなるワクワクする、「A T Mな七友会」を目指していきたいと思っております!!

遠藤会長ご退任のご挨拶

ご協力ありがとうございました



人文社会科学部
七友会1期生 遠藤 隆

2018年から昨年まで6年間同窓会長を仰せつかってきました。就任の翌年は岩手大学の70周年記念大会に参加しました。そして2021年には七友会40周年の記念大会を開催する予定でしたが、コロナ禍で1年遅れの22年ようやく開催することが出来ました。実行委員会では、仲間たちが繰り返し繰り返し検討を重ね、悩んだ末に延期を決めました。

やっと開催した同窓会では、お笑い芸人を始め、多種多様な能力を持つ仲間たちが会を盛り上げてくれてユニークで楽しい会にしてくれました。

同窓会長になって幸せを感じたのは、大勢の仲間が記念大会の成功のために汗を流し知恵を出してくれる姿に接したことです。自分自身が大好きな岩手大学のために尽くしてくれる仲間がいることは何よりの幸せでした。今はこの6年間に感謝しかありません。

ご協力ありがとうございました。そしてこれからもよろしく願いいたします。

丸山学部長ご挨拶



人文社会科学部
学部長 丸山 仁

この4月から学部長として2年間、学部の舵取りを担うことになりました。七友会の皆様には、日頃から本学部の

教育・研究に対して多大なご支援を頂いていますこと、改めて感謝申し上げます。学部長就任前の小川智学長との面談においては、人文社会科学部の卒業生が広く地域の社会、経済、行政、そして（とりわけ有能な職員として）本学を支えているという認識を共有したところです。

御周知のとおり、本学部は創設以来「専門深化（深く学ぶ）」と「総合化（広く学ぶ）」の両立を目指してきました。学生は本学部の特色である主副専修プログラム制の下で、自分の専門分野を系統的に学ぶとともに、幅広い学問分野に触れることで、専門分野に関する知識や能力だけでなく、物事を多面的・総合的に把握する能力を身につけることができます。

以前に本欄でお伝えしていたように、この4月から専修プログラム制が再編されます。従来よりも専修プログラムを大括り（人間文化課程は9から4へ、地域政策課程は5から4へ）にすること

で、学修に関する選択の自由度を高めるとともに、各プログラムの担当教員を増やし、持続可能な教育体制を構築します。また新たな学びの場として、考古学実習室を設置しました。

学問の世界は、「学ぶ」と「問う」との繰り返しです。大学では正解を求めること以上に、自ら問う姿勢が大切で、その点が勉強の世界との大きな違いでしょう。幸い本学部には、人文科学・社会科学を中心に、広範囲にわたる学問のプロ（教員）が揃っています。学生の自由な問いを広く受け止め、深く探求する。そんな学びの場を目指したいと思います。

岩手大学は2029年に創立80周年、本学部は2027年に創立50周年を迎えます。そこで現在本学では、「岩手大学創立80周年記念事業」の準備が進められており、本学部は其中で「創立50周年記念デジタルアーカイブ作成プロジェクト」に取り組みます。本学部の教育・研究の成果、社会に果たしてきた役割を振り返ると共に、その魅力を広く発信し、未来へつなげるプロジェクトで、同窓生の皆様のお力添えが不可欠な事業であると思います。

七友会の皆様のご支援、ご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

横山学部長ご退任のご挨拶



人文社会科学部
横山 英信

本年3月の学部長退任にあたり、一言御挨拶を申し上げます。

私は2015年度～2018年度及び2021年度～2024年度の通算4期8年間、学部長を務めさせて頂きました。その間、七友会会員の皆様から物心両面から様々な御支援を頂きましたことは、業務を遂行する上で大きな励みになりました。改めて皆様に感謝申し上げます。

大学をめぐる状況は厳しさを増していますが、

本学部は所属教員の知恵と協力の下にこれまで幾度も難局を乗り越えてきました。2025年度からはプログラム改編によってバージョンアップした教育体制がスタートし、再来年の2027年には学部創立50周年を迎えます。

4月からは丸山仁新学部長の下で「総合化と専門深化」を理念とする学部の教育・研究に磨きがかかり、学部がさらに充実していくことと存じます。これからも七友会会員の皆様の変わらぬ御支援をお願いできれば幸いです。

最後になりますが、七友会のますますの御発展と会員各位の御健勝を心より御祈念申し上げます。

ご退任の先生ご挨拶



人間文化課程
教授 樋口 知志

定年退職を迎えて

日本史の樋口です。1995年4月に着任したので、人文社会科学部での教員生活はちょうど30年になります。1996年3月の卒業生を樋口ゼミ1期生とすると2025年3月に私と一緒に卒業する学生は30期生です。こちらからみればみんな同じく「私のかわいい教え子」ですが、1期生と30期生では年齢が親子ほど違います。最初の頃は「ちょっと年の離れた兄貴」的存在として学生と接してはいたはずが、あっという間に時が流れ、今や「ちょっと口うるさい爺さん」的存在になってしまったかな、という感じです。

3月1日（土）によせばいいのに大講義室で最終講

義をやりました。研究・教育いずれの面でもたいした功績のない私があえて最終講義などという大それたものを企てたのは、ただただ私に指導を受けたという経験を共有する教え子のみんなが年齢・世代の差を超えて相互交流を深めるきっかけを作りたい、またそれを縁としてみんなが繋がり合うことでこれから何か素敵なものをたくさん作り上げていって欲しいと願ったが故のことでした。そして、その願いは今現実に、かなりいいかたちで徐々に叶えられつつあるようにも感じています。

4月からは晴れて自由の身。現役時代になかなか進捗しなかった著書執筆（6冊！）の仕事に集中できずし、趣味のクラシックギター演奏も思いつき切り楽しみたいと思います。みなさまもどうかお元気で。長い間本当にお世話になりました。



人間文化課程
教授 奥野 雅子

出会いに深く感謝

岩手大学の在校生と同窓生、そして保護者の皆さまをはじめとする七友会の皆さま、皆さまに出会い、ここ岩手大学で一緒に過ごしてこられたこと、心より感謝しております。岩手大学に赴任したのは12年前ですが、たくさんの素晴らしい学生さんや教職員の皆さまとの出会いがありました。岩手大学の学生さんは、優秀で粘り強く、素直で実直でちょっと控えめであると感じています。大きなポテンシャルを秘め、

一生懸命自分に向き合っていると思います。そんな学生さん達が、見事に開花していく姿を感動をもって見守ってきました。私は大学教員として本当に幸せでした。卒業してからも進化を続け、頼もしくなっていく卒業生と関わっていると、私がどれだけ幸せであり続けるかを感じざるをえません。

保護者の皆さまのご子息ご令嬢へのこれまでサポートに感謝いたします。また、私もたくさんの教職員の皆さまから助けていただきました。私は、岩手大学を退官しますが、皆さまへの恩返しと思い、今後の人生においても少しでも人の役に立てるよう研鑽を積んで参ります。本当にありがとうございました。皆さん、お元気で！



人間文化課程
教授 Frank Schwaborn

長年にわたり日本で大学教員として生活できたことを、大変嬉しく感謝するとともに、誇りに思っています。信州大学での授業初日以来、学生たちとの日々は、多くの楽しさと喜びを与えてくれたと同時に、私自身も非常に沢山のことを学ばせてもらいました。この33年間の経験を一言で表すとすれば、「冒険」という言葉が最もふさわしいでしょう。日本で生活し、働くことはまさに冒険そのものでした。

また、私の文学の授業の指針を一文でまとめるとすれば、ロシア出身の作家ウラジーミル・ナボコフの言葉がふさわしいように思います。彼は、コーネル大学でヨーロッパ文学の教授を務めていた際、こう述べています。"In my academic days I

endeavored to provide students of literature with exact information about details, about such combination of details as yield the sensual spark without which a book is dead."

しかしながら、ナボコフの時代からは、多くのことが変わってしまいました。大学における人文学の価値は、日本に限らず世界的に劇的に低下し、大学のカリキュラムや研究資金が、経済や金銭的な利益、または収益性の有無によって支配されてきています。これに対して、私の母国における大学制度を築いた人物であるヴィルヘルム・フォン・フンボルトは、大学での学びは主に金銭的利益や職業の準備のためではなく、豊かな人格の形成と開花を目的とすべきだと考えていましたが、私もこの古き良き見解に共感しています。

文学や哲学、芸術や音楽こそが人格を豊かにし、特に「IT」や「AI」の時代、さらには台頭するナショナリズムや全体主義的な傾向にある今、歴史を知ることがこれまで以上に重要であると私は信じています。

2023年度評議員会での事業報告

1. 2023年度は、新型コロナウイルスが重大な感染症である2類から5類に変更され、活動制限が緩和されたこともあって、評議員会は4年ぶりに盛岡会場開催、オンライン参加によるハイブリッド開催としました。
2. 会報「七友会だより」は、第53号を2024年3月22日に発行しました。

2023年度のおもな活動は次のとおりです。

- 2023年4月11日（火） 三役会議開催
議事1. 評議員会について
議事2. その他（遠藤会長 ほか4名出席）
- 4月13日（木） 岩手大学同窓会連合会計監査（稲垣副会長 出席）
- 5月12日（金） 細江達郎先生 岩手県勢功労者顕彰祝電
- 5月20日（土） 岩手大学理工学部同窓会一祐会創立80周年記念式典（遠藤会長 出席）
- 5月30日（火） 第25回岩手大学同窓会連合理事会
議題1. 令和4年度事業報告（案）について
議題2. 令和4年度決算（案）について
議題3. 令和5年度事業計画（案）について
議題4. 令和5年度予算（案）について
議題5. 卒業生・修了生と学長との懇談会（第15回）について
議題6. 次期会長等の選出について
議題7. その他
報告1. 各学部同窓会活動報告について
報告2. 岩手大学の取組について
報告3. その他（遠藤会長、鈴木幹事 出席）
- 6月3日（土） 第74回岩手大学開学記念行事（遠藤会長 ほか出席）
- 6月17日（土） 2023年度評議員会
議事 第1号議案 2022年度事業報告、会計決算報告
議事 第2号議案 2023年度事業計画（案）、会計予算（案）
議事 その他
- 9月2日（土） 岩手大学卒業生・修了生と学長との懇談会（第15回）
稲垣副会長 講演（遠藤会長 ほか多数出席）
- 12月 発行 岩手大学同窓会連合会報2023「活躍する同窓生INTERVIEW」
石川健正氏 掲載
- 2024年1月22日（月） 第26回岩手大学同窓会連合理事会
議題1. 卒業生・修了生と学長との懇談会（第16回）について
議題2. 岩手大学創立80周年記念事業について
議題3. 外国人留学生同窓会支部の登録について
議題4. その他
報告1. その他（遠藤会長、鈴木幹事 出席、吉田副会長 陪席）
- 2月27日（火） 第27回岩手大学同窓会連合理事会（メール会議）
議題1. 北米支部の登録について
議題2. その他
報告1. その他（遠藤会長、鈴木幹事 出席）
- 3月4日（月） 岩手大学人文社会科学部定年退職教員記念品贈呈
- 3月17日（日） 評議員会第1回準備会開催
議事1. 評議員会について
議事2. その他（遠藤会長 ほか4名出席）
- 3月21日（木） 第28回岩手大学同窓会連合理事会（メール会議）
議題1. 同窓経営者の会支部の登録について
議題2. その他
報告1. その他（遠藤会長、鈴木幹事 出席）

2023年度会計決算報告および会計監査報告

今回の会計監査については、3名の監査委員に郵送等の手段を用いて監査を実施していただいております。

2023年度 岩手大学人文社会科学部同窓会 会計決算報告

一般会計

<収入の部>

(単位 円)

項目	予算額	決算額	比較増減	摘要
会費	3,940,000	3,940,000	0	197名
前年度繰越金	3,466,253	3,466,253	0	
特別会計より繰入	0	0	0	
雑収入	47	1,040	993	40(利息) 1,000(寄付)
合計	7,406,300	7,407,293	993	

<支出の部>

項目	予算額	決算額	比較増減	摘要
1. 事業費	3,050,000	2,742,302	△ 307,698	
1) 会報発行	1,900,000	1,756,527	△ 143,473	
ア. 印刷費	1,200,000	1,117,347	△ 82,653	第53号印刷代 封筒印刷、封筒入れ作業
イ. 郵送費	700,000	639,180	△ 60,820	第53号郵送費
2) 会員活動援助費	50,000	0	△ 50,000	
3) 卒業記念品贈呈費	100,000	100,000	0	44期分積立
4) 支部援助費	50,000	0	△ 50,000	
5) 文化事業補助	50,000	0	△ 50,000	
6) 寄附金	500,000	500,000	0	学部への奨学寄附金50万円
7) 同窓会連合負担金	300,000	300,000	0	同窓会連合会費
8) 同窓会設立40周年記念事業費	0	0	0	
9) 諸費	100,000	85,775	△ 14,225	退職教職員記念品代等
2. 会議費	600,000	405,434	△ 194,566	
1) 評議員会会議費	500,000	401,033	△ 98,967	評議員会諸経費等
2) 諸会議費	100,000	4,401	△ 95,599	会議費等
3. 事務費	250,000	67,034	△ 182,966	事務用品、振込手数料、HP維持費等
4. 特別積立金	0	0	0	
5. 雑費	100,000	100,000	0	事務謝金7万円、アルバイト料3万円
6. 学部設立50周年記念積立	0	0	0	
7. 同窓会設立50周年記念積立	2,000,000	2,000,000	0	
8. 予備費	1,406,300	0	△ 1,406,300	
合計	7,405,300	5,314,770	△ 2,091,530	

2023年度収支決算

収入合計 7,407,293円

支出合計 5,314,770円

差引残高 2,092,523円は、2024年度に繰越いたします。

特別会計

<収入の部>

(単位 円)

項目	予算額	決算額	比較増減	摘要
前年度繰越金	41,099,289	41,099,289	0	
新規積立金	2,100,000	2,100,000	0	卒業記念品贈呈費
学部設立50周年記念積立へ繰り戻し	0	0	0	
利息	731	705	△ 26	利息 (451+83+127+44)
合計	43,200,020	43,199,994	△ 26	

<支出の部>

項目	予算額	決算額	比較増減	摘要
1. 一般会計へ繰出	0	0	0	
2. 積立金	43,200,020	43,199,994	△ 26	年度末積立金額=翌年度繰越金額
1) 特別積立金	26,599,950	26,599,954	4	26,599,503(前年度決算)+451(利息)
2) 卒業記念積立	4,675,400	4,575,393	△ 7	4,575,310+83(利息)+100,000(新規積立)
3) 学部設立50周年記念積立	7,402,710	4,402,716	6	7,402,599+127(利息)
4) 同窓会設立50周年記念積立	4,521,960	4,521,931	△ 29	1,021,887+1,500,000(2022年度繰り戻し)+44(利息)+2,000,000(新規積立)
合計	43,200,020	43,199,994	△ 26	

会計監査報告

2023年度の決算について監査を行い、正しく処理されていることを確認いたしました。

2024年5月11日

監査員 工藤 康 身 ㊞

2024年5月14日

監査員 小檜山 修 ㊞

2024年5月9日

監査員 相澤 文 恵 ㊞

2024年度事業計画

1. 会報「七友会だより」については、年1回の発行とし引き続き内容の充実を図ります。
2. 会員名簿の充実と事務機能の強化を図る必要があることから、引き続き事務担当者の採用やアルバイトの採用等その方策を検討します。
3. 引き続き年間予算の収入と支出の均衡を図りながら予算の執行を行います。

2024年度会計予算

1. 今年度も評議員会を盛岡会場で開催することとしていることから、開催に見合う予算を計上しています。
2. 今年度は「卒業生・修了生と学長との懇談会」が「トークカフェin東京」として東京都内で開催される予定であることから、会員活動援助費と支部援助費に若干予算を厚めに配分します。
3. 予算に余裕があり、大学創設80周年に向けて寄附金拠出の要請が予想されることから、特別会計特別積立金に100万円積立てします。
4. 同窓会設立50周年記念積立に100万円積立てします。

役員改選について（任期2024年6月～2026年6月）

2024・2025年度 七友会役員（案）（敬称略・順不同）

役職	氏名(入学期)	新任・再任
会長	長澤 秀則 (3)	新
副会長	相澤 文恵 (1)	新
同	高橋 享孝 (6)	新
同	吉田 真二 (7)	再
理事	稲垣 秀悦 (1)	新
同	大澤 雅昭 (1)	再
同	黒沢 成 (1)	再
同	高嶋 才司 (2)	再
同	中村 喜一 (2)	再
同	松岡 和生 (3)	再
同	小檜山 修 (3)	新
同	石川 健正 (4)	新
同	大谷 敬 (4)	再
同	新田 浩喜 (5)	再
同	門傳 英慈 (5)	再
同	大志田 研 (6)	再
同	佐藤 伸樹 (6)	再
同	足立 慎悟 (7)	新

役職	氏名(入学期)	新任・再任
理事	佐藤 泰 (7)	再
同	内堀 哲 (8)	新
同	工藤 康身 (8)	新
同	栗林 健司 (8)	再
同	小原 透 (11)	新
同	白根 徹 (14)	新
同	小野 道治 (17)	新
同	小野澤章子 (10)	再
幹事	鈴木 護 (12)	再
監査員	中野 玲子 (1)	新
同	藤村 紀行 (1)	新
会計(兼務)	高橋 享孝 (6)	新
会計(兼務)	白根 徹 (14)	新
顧問	落安 昭三 (1)	再
同	塩田 勝美 (1)	再
同	佐原 和典 (1)	再
同	遠藤 隆 (1)	新
同	横山 英信 (学部長)	再

※晴山農理事、夏井正悟理事は退任いたします。

その他

コミュニケーションツールに係る今後の活用方法について

引き続き、ホームページを会員間のコミュニケーションツールとして活用します。

2024年度 岩手大学人文社会科学部同窓会 会計予算

一般会計

<収入の部>

(単位 円)

項 目	予 算 額	前年度予算額	摘 要
会 費	3,880,000	3,940,000	新入生180名、編入生11名、在学生3名 計194名
前年度繰越金	2,092,523	3,466,253	
特別会計より繰入	0	0	
雑収入	477	47	利息(2023年度40)
合 計	5,973,000	7,406,300	

<支出の部>

項 目	予 算 額	前年度予算額	摘 要
1. 事業費	3,450,000	3,050,000	
1) 会報発行	2,200,000	1,900,000	年1回(第54号)発行予定
ア. 印刷費	1,300,000	1,200,000	印刷、封筒印刷、封筒入れ作業等
イ. 郵送費	900,000	700,000	郵送費
2) 会員活動援助費	100,000	50,000	親睦会、交流会等の補助
3) 卒業記念品贈呈費	100,000	100,000	45期分積立
4) 支部援助費	100,000	50,000	トークカフェin東京援助、支部大会援助等
5) 文化事業補助	50,000	50,000	
6) 寄附金	500,000	500,000	人文社会科学部へ奨学寄附金
7) 同窓会連合負担金	300,000	300,000	同窓会連合年会費
8) 諸費	100,000	100,000	慶弔費、退職教職員記念品等
2. 会議費	700,000	600,000	
1) 評議員会会議費	600,000	500,000	評議員会諸経費等
2) 諸会議費	100,000	100,000	会議費等
3. 事務費	100,000	250,000	事務用品、同窓会通信費、データ管理、HP維持費等
4. 特別積立金	1,000,000	0	大学創立80周年対策
5. 雑費	100,000	100,000	事務謝金、アルバイト料
6. 学部設立50周年記念積立	0	0	
7. 同窓会設立50周年記念積立	1,000,000	2,000,000	
8. 予備費	623,000	1,406,300	
合 計	5,973,000	7,406,300	

特別会計

<収入の部>

(単位 円)

項 目	予 算 額	前年度予算額	摘 要
前年度繰越金	43,199,994	41,099,289	
新規積立金	2,100,000	2,100,000	卒業記念品贈呈費、特別積立金(1百万円)、同窓会設立50周年記念積立(1百万円)
利息	5,006	731	2023年利息額(705)
合 計	45,305,000	43,200,020	

<支出の部>

項 目	予 算 額	前年度予算額	摘 要
1. 一般会計へ繰出	0	0	
2. 積立金	45,305,000	43,200,020	
1) 特別積立金	27,603,000	26,599,950	26,599,951+1,000,000(新規積立額)+3,046(利息)
2) 卒業記念積立	4,776,000	4,675,400	4,675,393+100,000(新規積立額)+607(利息)
3) 学部設立50周年記念積立	7,403,670	7,402,710	7,402,716+954(利息)
4) 同窓会設立50周年記念積立	5,522,330	4,521,960	4,521,931+1,000,000(新規積立額)+399(利息)
合 計	45,305,000	43,200,020	

近況報告

岩手大学同窓会トークカフェin東京

～ 卒業生・修了生との懇談会（第16回）～
令和6年7月28日（日） KKRホテル東京

これまで現在の大学の取組状況の紹介と意見交換を目的に開催してきた「学長との懇談会」ですが、気軽に参加できる雰囲気になろうとスタイルを変えました。

今回のトークテーマは「各地で活躍する卒業生と大学のつながりを再構築するために」でした。

登壇した教育学部令和5年卒女子、工学平成22年卒男子からは「今回まで繋がりはなかった。考えたことがなかった。」「自分にメリットがないと思うから繋がりを持たない」「公式的な管理より、個人的な繋がりが大事。今回の依頼も先生からショートメールを

もらったから。学生が現役の時に先生としっかり繋がる方がいい。」と言った発言がありました。

今後、同窓会活動を活性化していくヒントになりますね。

トークのあとは学部ごとのテーブルで昼食懇談会。人社卒の参加者には、盛岡市東京事務所 藤村茂克（17期）所長、筑波大学 田村洋貴（24期）教育推進課長、内閣府 規制改革推進室 佐々木葵（34期）参事官補佐が参加して懇親を深めました。



岩手大学ホームカミングデー

令和6年10月19日（土）

岩手大学上田キャンパス

大学祭不來方祭に合わせ、創立80周年記念事業の一つとして卒業生・修了生、元教職員その他どなたでもということで開催されました。

研究紹介は「大学と社会をつなぐ研究の取り組み」として人文社会科学部の小野澤章子准教授から現代行

動科学会と岩大行動科学についてや、同じく鈴木護准教授からは、大学生における新型コロナウイルス感染症にかかるリスク管理機関への信頼と対処行動についての紹介がありました。

卒業記念講演では昭和58年農学研究科修了で恵泉女子学園大学副学長の藤田智さんが「学んだことを、世の中に伝える」として、NHK趣味の園芸講師の裏話、芸能人との秘蔵写真も交えながら楽しいお話を伺いました。

卒業アルバムの閲覧もできて、懐かしい当時の同級生に会う（写真）こともできました。

交流ひろば

人文社会科学部国際文化課程文化システムコース卒業

七友会第26期生 和田 千帆さん

令和6年2月12日（月）岩手県立美術館のミュージアムコンサートで、POPS ユニット「ずれずれ2（にゃー）」のボーカル、ピアノとして、同じ岩大出身のキクヒロさん（アコースティックギター）と出演。学生当時と今の活動について聞きました。

「現在はシンガーソングライター、またボイストレーナーとして、東北を中心に音楽に携わる仕事をしています。

大学時代はあまり積極的にいろんなことに取り組むタイプではなく、まったく褒められるような学生ではなかったのですが、文化というものについて考えることは面白かったです。知らない考え方を知る、また自分がすんなり受け入れられない考え方であっても、その成り立ちを知って理解することはできるかもしれないということを知りました。それは今の自分にも大き

く影響していて、例えば初めて会う人、訪れる場所への関心の持ち方やコミュニケーションの取り方など私を形成する根幹になっていると思います。

入学後は音楽サークルに所属していたのですが、その流れが思いがけず続いていて自分でも驚いています。卒業論文は引越などのださくさに紛れて紛失してしまったので、正しいタイトルは定かではないのですが『歌はなぜ遠くまで届くのか』ということをテーマにしたものだったと記憶しています。なぜそれをテーマに取り上げたのか。二十年程経った今ではだいたい曖昧な記憶ですが、テレビやラジオ、日常会話で話す音よりも、メロディに乗った音楽としての言葉のほうが物理的な距離が離れていても言葉を聞き取りやすく、また強く言葉心に入ってくると感じたのがきっかけです。今の暮らしはその答えを今でもずっと探しているように思います。」

機会があれば千帆さんの音楽の世界に浸ってみたいですね。



七友会八戸支部の発足について

八戸市に在住している七友会会員様より、八戸支部を立ち上げて欲しいとの要望から、検討の結果、八戸支部を立ち上げることにしました。

つきましては、特に八戸市及びその近郊にお住い等の会員の皆様で参加をご希望される方は『会員の皆さん、連絡先をお知らせください』のその他の欄に【参加登録の有無】欄に記載しておりますので、丸印を付してお知らせ願います。他学部の同窓会との合同での会合等、様々な行事や情報等をご案内する予定です。

※七友会事務局（人文社会科学部内）

メール：shichiyu@iwate-u.ac.jp / FAX：019-621-6715

でも受付ております。（電話でのお申し込みは受け付けておりません。）

会員の皆さん、連絡先をお知らせ下さい

同窓会では、毎年このような会報を発行しています。これらを皆さんに送るためには、連絡先の把握が重要になりますが、転居等で連絡先が不明になることが多く、現在、4割強の方が不明状態になっています。

連絡先は現住所でも実家等家族住所でも構いませんが、確実に連絡のつくところをお願いします。転居等の際には郵便局への届出と共に、事務局へもお知らせ下さい。

なお、寄せられた情報は同窓会活動のみに利用されるもので、事務局で一括管理されています。また、会費については、ほとんどの方が入学時に納められていますので、特に請求されることはありません。同窓会活動は、ほとんど会員のボランティアで運営されています。今後の学部の発展及び同窓生の親睦のための活動に、ぜひ御協力下さい。

※友人で会報の届いていない方は、連絡先不明になっている可能性があります。すぐに下記連絡先情報により七友会へお知らせ下さい。

連絡先情報

ふりがな 氏名 (男・女)	卒業 専攻	期 (S (コース 課程)) 年 月卒 研究室 ゼミ等	封筒にある整理番号 No. _____
現住所 〒			
(自宅) TEL FAX	携帯	勤務先名等 (可能なかぎり)	
E-mail			
家族等連絡先 〒			
その他 八戸支部会への参加について、参加登録の有無 (有・無)			

大学の動向

岩手大学は2029年（令和11）年に創立80周年を迎えます。併せて人文社会科学部も1977年（昭和52）年に設置され2027（令和9）年に50周年を迎えます。

これに伴い、本学部の企画として50年のあゆみを振り返る『デジタルアーカイブ』を作成する予定で

す。学部関係資料や写真をデジタルアーカイブ化すると共に卒業生や教職員・関係者からのメッセージも掲載しHP上で公開する予定です。

在学生はもちろん、卒業生の皆様からのお力添えも賜りながら完成させたいと考えておりますので、是非、ご協力をお願いいたします。

編集後記

発行日前の約10日間、大船渡山林火災は平成以降最大規模の消失面積（昭和では、昭和36年三陸フェーン大火の26,000ha）となり、被災された方々にはお見舞い申し上げるとともに消火・再建・ボランティアに尽力される県内外の皆さまに感謝申し上げます。今回は現場でできることに限りがあると思われるので、募金、義援金で支援したいと思います。

さて、長澤新会長以下、事務局が一新されました。

これまでは記事を提出することがある程度でしたが、今度は広報担当として大学、印刷会社、役員との連絡調整とりまとめ（汗）。慣れた印刷会社担当者さんにリードしてもらってようやく発行。要領が分かりましたので、皆様のご協力を得ながら次回に向けてより会員の皆様に役に立つ広報となるよう素材集めから充実させていきたいと思っております。（吉）